

2025年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月8日 文学部 哲学科

問題Ⅱ

問1

ア	どうき	イ	くら	ウ	こと
---	-----	---	----	---	----

問2

私たち人間は鳥の行動を外から観察することはできるが、鳥に感情があるとしてもその感情を直接知ることはできないし、間接的に推測する手がかりも乏しい。そのため鳥が急に飛び立つ動きは観察できても、それが恐れによるのか驚きによるのかを区別する判断は困難であるということ。(130字)

問3

亀を見て最初は不動になるが、その後亀に触ってみた猿もいたことから、猿は亀を恐れた度合いは少なく、亀に驚いたのだとわかる。(60字)

問4

世界のなかで生じる様々な物事については人は経験や知識の蓄積によって驚かなくなることがありうるが、この一つの世界が現実存在することは、それが必然的かどうかの原因を私たちは知ることができないため、世界の存在自体に私たちはいつまでも驚かざるをえないということ。(128字)

問5

驚きは経験の少ない人の感情でしかないという予想される反論を紹介しつつ、では最も驚くべきものは何かと読者に予期させる役割。(60字)

2025年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科: 2月8日 文学部 哲学科

問題Ⅲ

問1

カ	爆発	キ	同然	ク	完璧
---	----	---	----	---	----

問2 出題意図や採点方針 ※テーマの記号[a]～[c]共通

a. 「自分」というものを出発点に置いて、そこから何十年という時間の幅を考えてみて、十年前の過去の自分と今の自分とは大きく違い同一の存在とは言えない、十年後の未来の自分がどのような存在であるかは想像もつかない、だから「自分」も一種の「他人」である、というような論の組み立て方はひとつありうるだろう。あるいは、「他人」というものを出発点に置いて、仮に、会話がスムーズに通じない相手は他人であると仮定したとき、たとえば十年前の過去の自分は英語をまったく知らないが、今の自分は多少の英語会話ができるため、過去の自分に英語で話しかけることができる、しかし過去の自分はそれを全く理解できないから、過去の自分にとって今の自分は全くの他人にほかならない、というような順序で論を組み立てることも可能だろう。

b. ある時点・ある場面でよい行動と評価できるものが、他の時点・他の場面でも同様によい行動であるとは言えない場合が多いのが現実である。その意味では、倫理にはどの「今」にとっての倫理なのかということがつねにつきまとう。そう考えるならば、利己主義にとっての「己」というのも実は無数の「今」の集まりなのであって、それぞれの「今」が異なる価値観を主張し合っているという複数性が「己」のなかに含まれていることになるだろう。こうした点をふまえながらなんらかの具体例などを提示できれば論が組み立てられるだろう。

c. 課題文中のマンガは一コマのなかに複数の人物を登場させており、ある一時点に複数の人物が同時に居合わせているという同時性が表現されている。この同時性はマンガが(絵画的に)得意とする時間表現であろう。またマンガのなかの右側の人物の腕は、腕を上下に動かしていることの描画表現で、こうした反復動作を静止画的に表現することもマンガの得意とする手法であろう。他方で、このマンガがある種の明快さを持っているのは、登場する各年代の主人公が十年といった長い幅の隔たりで区別された存在だからだ。そうではなく、たとえば一年間隔や一か月間隔では、見た目や言葉づかいの違いは鑑賞者が即座に見て取れるような違いにはならないだろう。小説には地の文という表現手段があり、地の文を多く使うことで数十秒や数分間といったごく短い時間のなかでの人物の思考や感情を事細かに言葉で描くことも可能である。マンガでも地の文を用いることは可能だが、その場合はマンガ固有の表現手法というよりは小説と共通の表現手法をそのマンガは用いていると言えるだろう。例としては、以上のような各点が論を組み立てる際の材料として想定されるだろう。